

森林植生の回復のために

① 囲う：山林内で施工性のよいネット柵でニホンジカの侵入を防ぐ。

植生を守るためには、柵で囲うことが効果的です。設置するときは、ニホンジカの侵入防止効果が高い仕様の柵を使用し、効果を持続させるために、定期的に維持管理することが必要です。



- 【柵の仕様(例)】
- ・高さ2m・ネットの目合い5cm
 - ・ネットの下部に50cmの折り返しを設ける
 - ・支柱の間隔2.5m
 - ・ネットを固定するアンカー間隔80cm

柵設置から約一年経過して、柵内の萌芽が回復しています。

ネット柵内外の下層植生植復率の変化 ※柵は2011年10月に設置

② 植生の導入：ニホンジカが嫌いな植物を使って緑化を図る。

柵の設置が困難な場所や、地面がむき出しになっていて早期に植生を回復させる必要がある場所において、ニホンジカが嫌いな植物を使用して緑化する手法を検討しています。



2012年6月 2012年8月 2012年10月

通常緑化に使う植物は、ニホンジカが好んで食べてしまいますが、マツカゼソウは、ニホンジカに食べられることなく、順調に生育しました。

マツカゼソウ種子入りの植生シート

POINT! 捕獲が必要!!

森林被害を軽減するためには、増えすぎたニホンジカを捕獲し、生息数を適正な密度までに減らすことが重要です。現在福井県では、適正な生息密度となるよう、計画的にニホンジカの捕獲を進めています。

※詳しくは、「第3期福井県特定鳥獣保護管理計画(ニホンジカ)」をご参照ください。
<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/nourin/tokutei.html>



福井県総合グリーンセンター 林業試験部

〒910-0336 福井県坂井市丸岡町楽間15
 TEL: 0776-67-0002 FAX: 0776-67-0004
 HP: <http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/green-c/sikennkenkyuu.html>
 E-mail: green-c@pref.fukui.lg.jp



ニホンジカによる森林被害について、お気軽にお問い合わせください。



ニホンジカによる森林被害の実態と対策

ニホンジカが増加することによって起こっている問題の現状と、問題を解決するための取組みをご紹介します。

ニホンジカとはどんな動物か?



ササを食べるニホンジカ



●オスだけに角があり、角は毎年はえかわります。



生まれて間もないニホンジカ

●メスは毎年5~6月に1頭の子供を産みます。(双子はまれ)

●1日に約3kgの植物を食べます。ほとんどの植物が餌になり、葉だけでなく、果実や樹皮も食べます。



●助走なしで、1.5mの柵を飛び越える高いジャンプ力を持っていますが、もぐりこんで柵内に侵入することが多いようです。



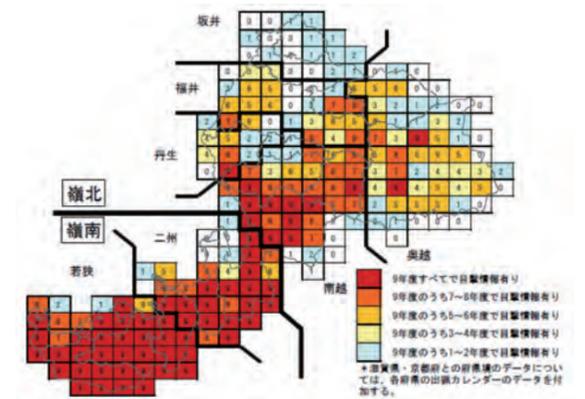
●ニホンジカは、ふたつの蹄を持っており、左右対称で半月状の足跡が残ります。



●糞は、俵状または球状で、大きさは約1~2cmです。

福井県内のニホンジカ事情

福井県においてニホンジカは、約30年前までは、嶺南地域を中心にわずかに生息していただけでした。しかし、1990年代以降、嶺南地域において生息数が増加し、農林業被害の報告が上がるようになりました。近年、嶺北地域においても分布の拡大と個体数の増加が起きています。



ニホンジカの目撃年度数の分布
 ※H14~22年度の9年間に、狩猟者からの目撃情報があった年度数の合計を示す。第3期福井県特定鳥獣保護管理計画(ニホンジカ)より引用

POINT!

生息密度が高いのは嶺南。嶺北でも生息数増加と分布拡大。

福井の森で起きていること



ニホンジカが増えすぎると森はどうなるのか・・・

① 林業被害

植えた苗木の枝葉が食べられ、生長した木の樹皮が剥がされてしまいます。

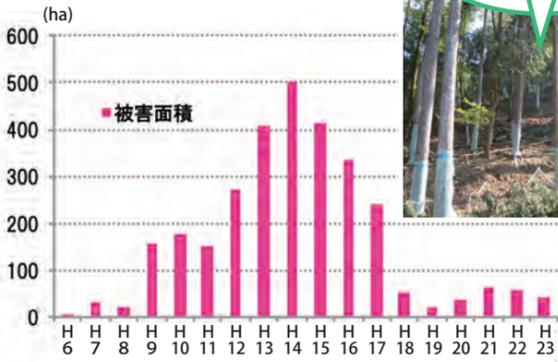


柔らかい部分を食べられたスギの苗木



ニホンジカオスが角をこすりつけて、樹皮が剥がれたヒノキ

被害対策：木の幹にネットを巻いて、樹皮が剥がされるのを防いでいます。



県内の林業被害面積推移

② 生物多様性の低下



ニホンジカが嫌いな植物しか残っていない林がみられます。

トリカブトの仲間
(有毒であるため、ニホンジカが食べない)

③ 下層植生の消失と土壌流出



下層植生が食べつくされた森林

森林内に低い木や草が生えておらず、傾斜が急な場所では、土が流れてしまいます。



表土の流出がみられる斜面

他にもある！ニホンジカが嫌いな植物

ニホンジカが嫌いな植物 (主なもの)



POINT!

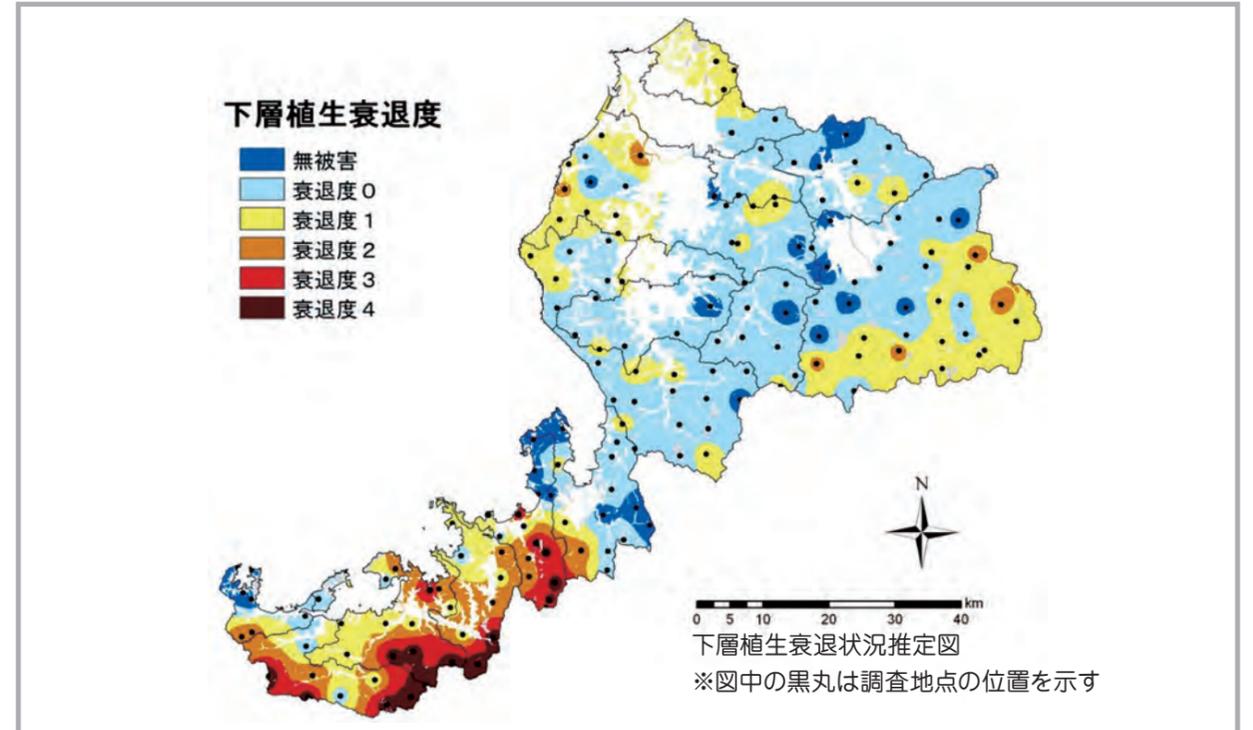
ここに紹介している植物だけが残っている場所があったら大変！ニホンジカの数が増えすぎている証拠です。

なぜ、ニホンジカが嫌うのか

これらの植物は、有毒成分を含んでいたたり、いやな匂いがあるため、ニホンジカが嫌っているのだと考えられます。ニホンジカが食べない植物は、場所によって変わります。ここで紹介した植物は、現在嶺南地域でニホンジカがほとんど食べない植物ですが、他の地域でこれらの植物が食べられないとは限りません。

森林被害の現状を調査しました。

グリーンセンターでは、2012年～2014年に、県内の172箇所の森林で下層植生の衰退状況を調査しました。ニホンジカの新しい食痕がなかった林分は無被害とし、食痕があった林分について衰退度0～衰退度4に被害程度を区分し、その結果をもとに被害マップを作成しました。

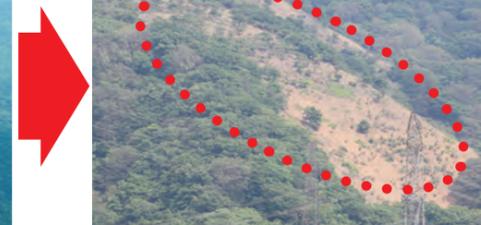


被害が最も進行しているのは、嶺南地域の県境付近です。嶺北地域でも、奥越地区や丹生山地において、一部衰退が始まっている場所がありました。

被害が進行している場所では・・・



2006年7月



2012年6月

かつて生えていたササやスキがニホンジカに食べられ、6年後には表土が見えるようになってしまいました。地表を覆う植生が消失することで、土壌浸食が急速に進行してしまいます。